

令和8年度 e・アンケートモニター
第1回アンケートNo.2 調査結果
テーマ 「新しい認知症観の普及について」

I 調査の概要

1 調査の目的

令和7(2025)年の本県における認知症高齢者数は 5.9 万人、軽度認知障害の高齢者数 7.0 万人と推計され、高齢者の約 3.6 人に1人が認知症又はその予備軍といわれています。高齢化の進行に伴い、今後も認知症の人の増加が見込まれており、県民により一層身近なものとなっていくと考えられます。

国は、認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会(共生社会)を目指して、令和6年12月に認知症施策推進基本計画を策定し、その中で「新しい認知症観」が示されました。

「新しい認知症観」とは、認知症になったらなにもできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方です。

今後、山口県において、共生社会の実現を目指す一環として、「新しい認知症観」の普及に向けた参考とするため、調査を実施します。

2 調査実施期間

令和8年8月7日(金)～8月21日(金)

3 調査対象

令和8年度e・アンケートモニター 116人

4 回答状況

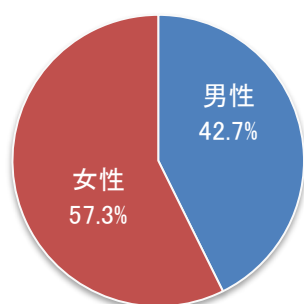
回答者 82人(回答率 70.7%)

5 調査担当課

山口県健康福祉部長寿社会課

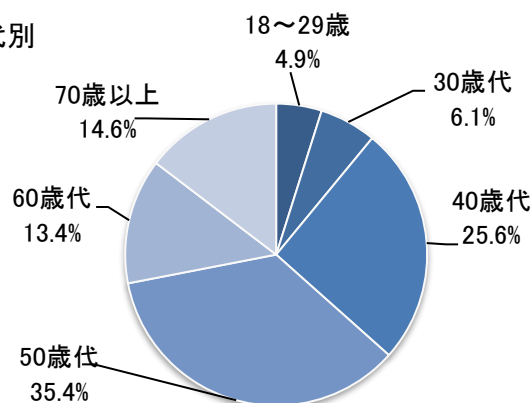
II 回答者の属性

■性 別



区分	人数	%
男性	35	42.7
女性	47	57.3
計	82	100.0

■年代別

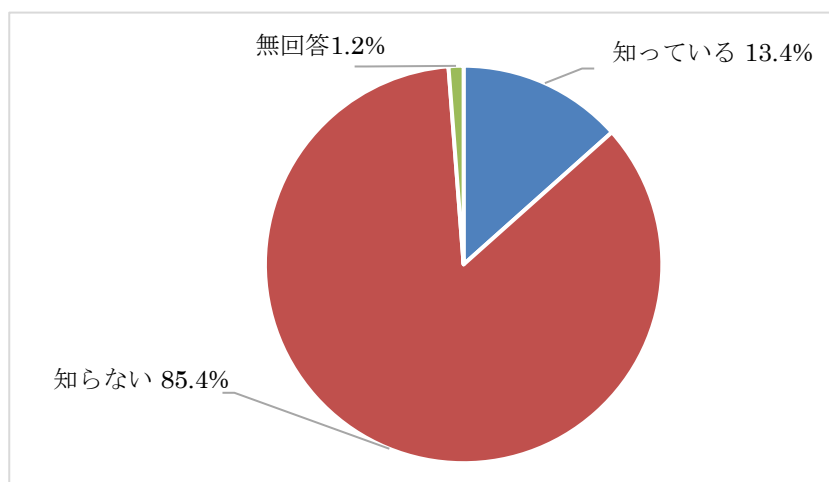


区分	人数	%
18～29歳	4	4.9
30歳代	5	6.1
40歳代	21	25.6
50歳代	29	35.4
60歳代	11	13.4
70歳以上	12	14.6
計	82	100.0

※「回答者の属性」、「調査結果」の各グラフ及び各表中に示した数値は小数点第2位を四捨五入しているため、全項目の合計が 100.0%とまらない場合があります。

Ⅲ 調査結果

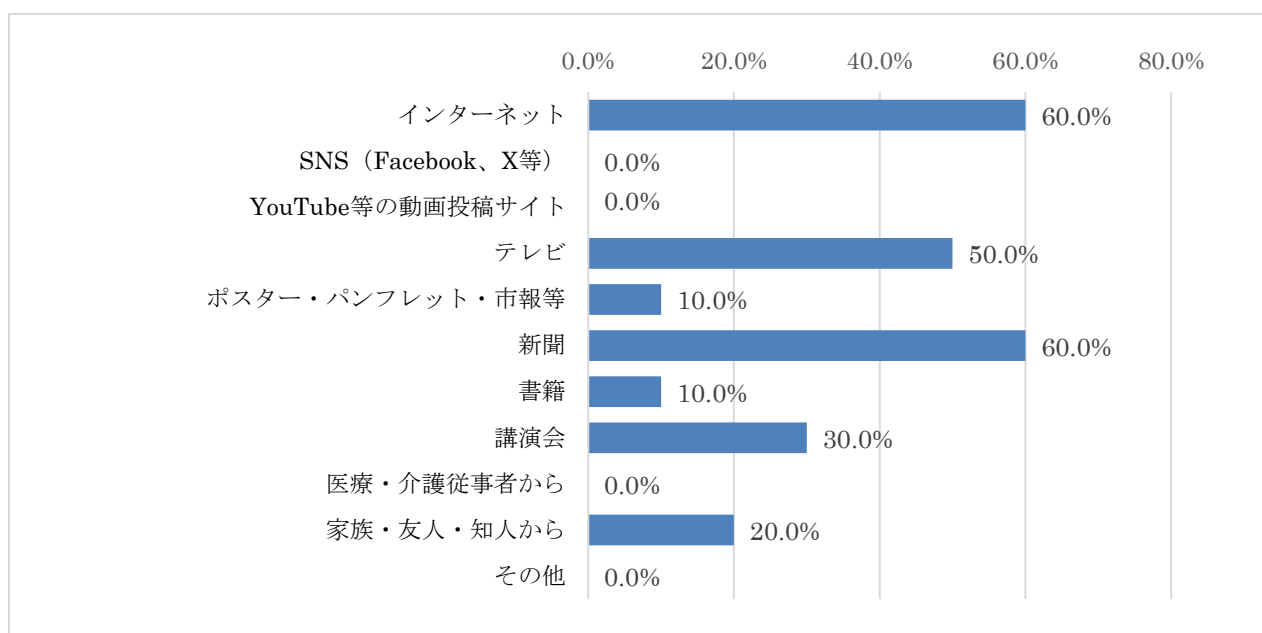
Q1 あなたは「新しい認知症観」について、知っていますか。(1つのみ)



(n = 82)

選択肢	人数	%
知っている	11	13.4
知らない	70	85.4
無回答	1	1.2
計	82	100.0

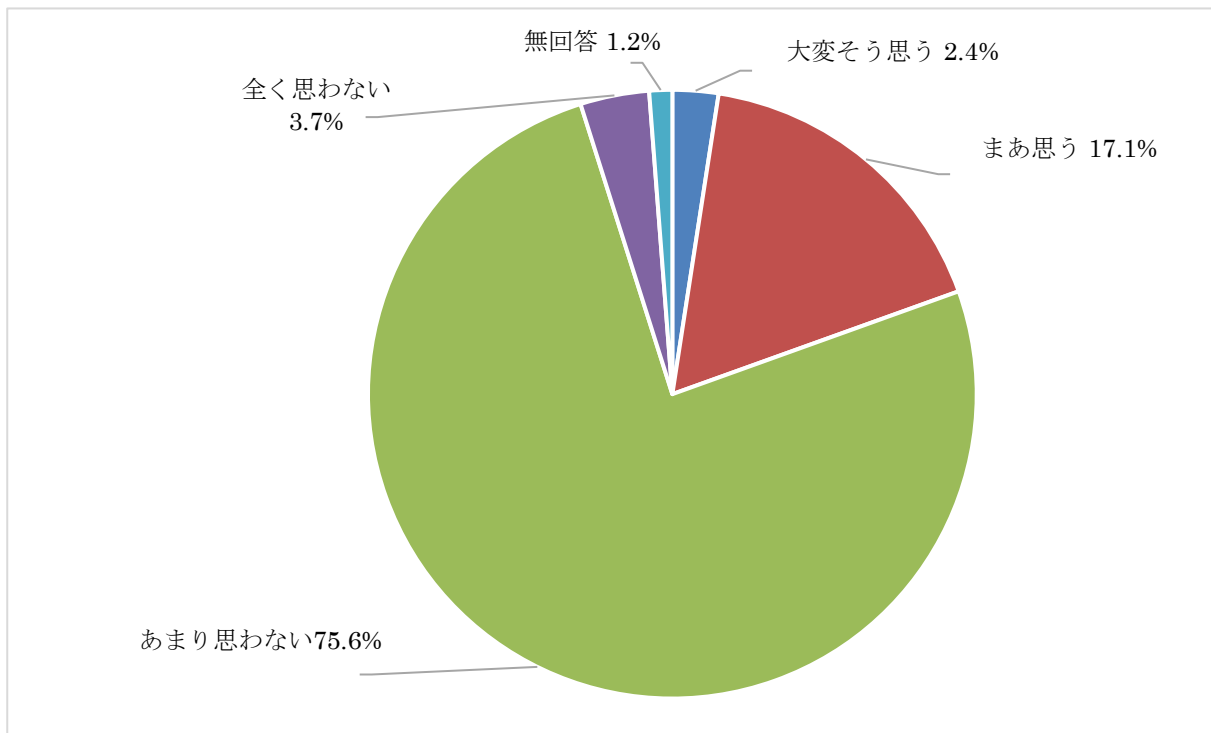
Q2 《Q1で「知っている」と答えた方》「新しい認知症観」について、どこで知りましたか。(3つまで)



(n = 11)

選択肢	人数	%
インターネット	6	60.0
SNS (Facebook、X 等)	0	0
YouTube 等の動画投稿サイト	0	0
テレビ	5	50.0
ポスター・パンフレット・市報等	1	10.0
新聞	6	60.0
書籍	1	10.0
講演会	3	30.0
医療・介護従事者から	0	0
家族・友人・知人から	2	20.0
その他	0	0

Q 3 地域の生活の様々な場面において、認知症の人の意思（考え、気持ち）が尊重され、本人の望む生活が継続できていると思いますか。（1つのみ）

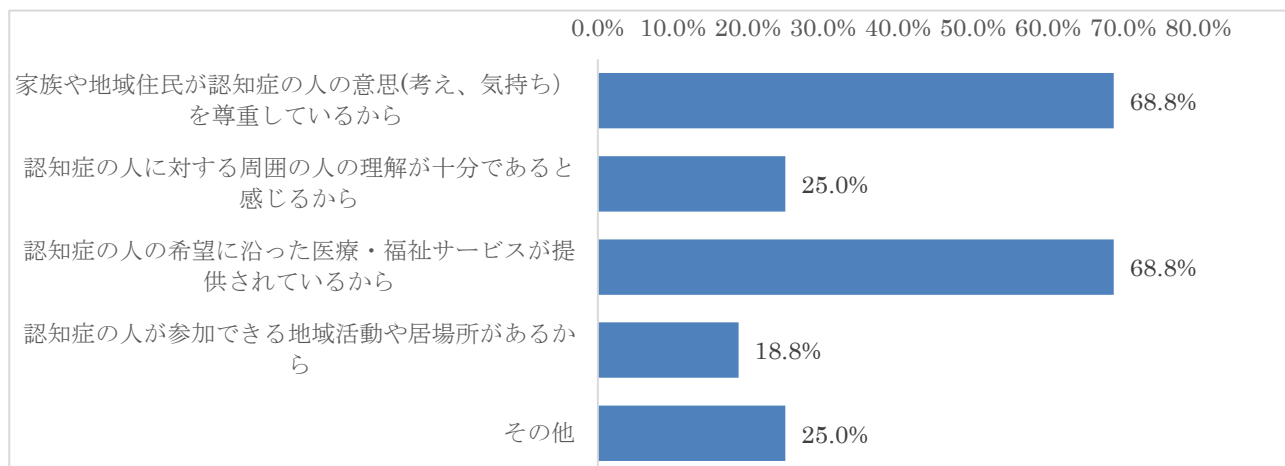


(n = 82)

選択肢	人数	%
大変そう思う	2	2.4
まあ思う	14	17.1
あまり思わない	62	75.6
全く思わない	3	3.7
無回答	1	1.2
計	82	100.0

Q4 《Q3で「大変そう思う」、「まあ思う」と答えた方》

そのように考えた理由は何ですか。(あてはまるものを全て選択)

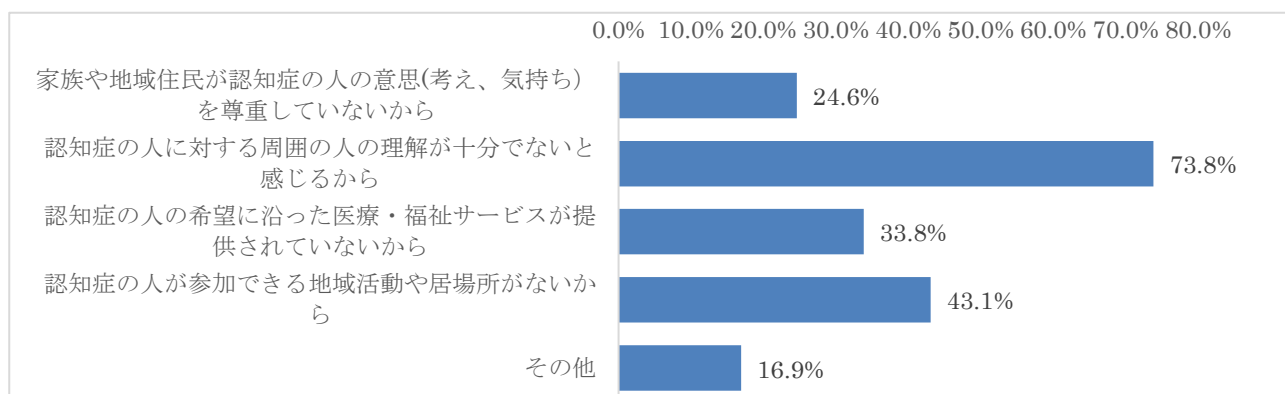


(n = 16)

選択肢	人数	%
家族や地域住民が認知症の人の意思(考え、気持ち)を尊重しているから	11	68.8
認知症の人に対する周囲の人の理解が十分であると感じるから	4	25.0
認知症の人の希望に沿った医療・福祉サービスが提供されているから	11	68.8
認知症の人が参加できる地域活動や居場所があるから	3	18.8
その他	4	25.0

Q5 《Q3で「あまり思わない」、「全く思わない」と答えた方》

そのように考えた理由は何ですか。(あてはまるものを全て選択)



(n = 65)

選択肢	人数	%
家族や地域住民が認知症の人の意思(考え、気持ち)を尊重していないから	16	24.6
認知症の人に対する周囲の人の理解が十分でないと感じるから	48	73.8
認知症の人の希望に沿った医療・福祉サービスが提供されていないから	22	33.8
認知症の人が参加できる地域活動や居場所がないから	28	43.1
その他	11	16.9